

平成28年度日本語教育大会  
「生活者としての外国人」のための日本語教育 テーマ別実践報告会

第3分科会  
「地域における日本語教育人材の養成・研修  
プログラムを考える」

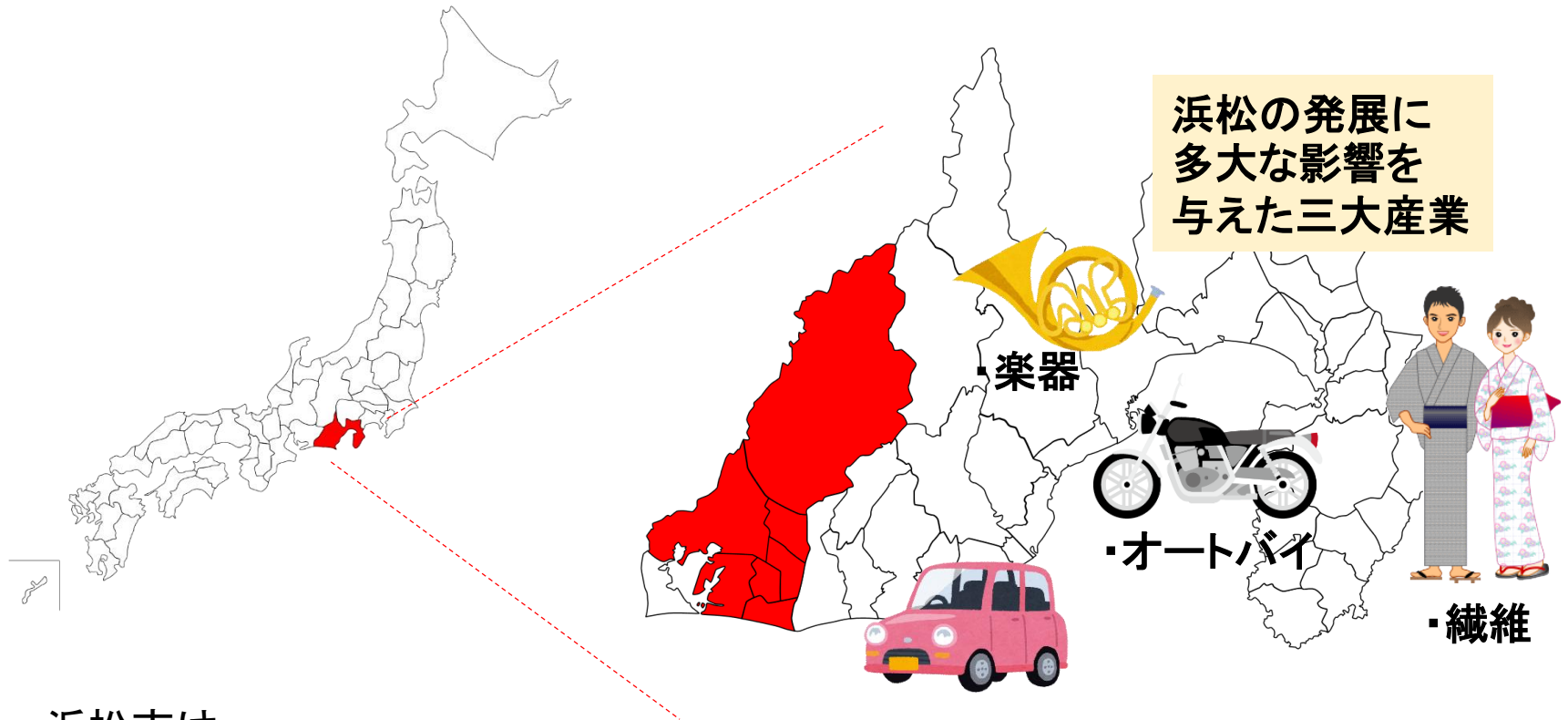
## 浜松版地域日本語教師養成講座

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)



内山夕輝

# 浜松市の位置と産業



浜松市は…

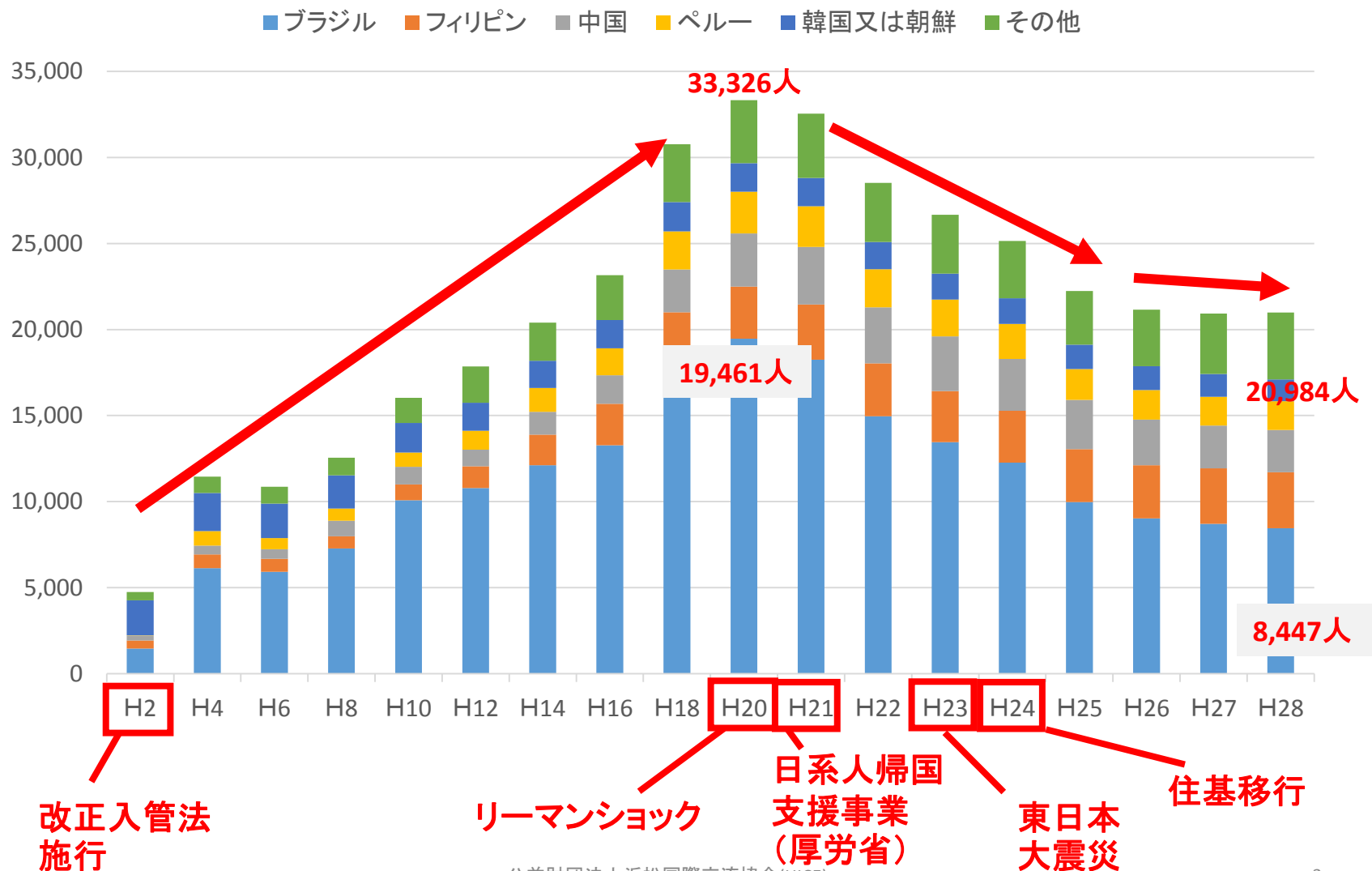
東京と大阪のほぼ中央に位置し、  
温暖な気候(雪が降らない)で、  
天竜川水系の豊富な水資源に恵まれている



政令指定都市の中で、  
第1次産業、第2次産業の割合が  
最も高い**ものづくり都市**

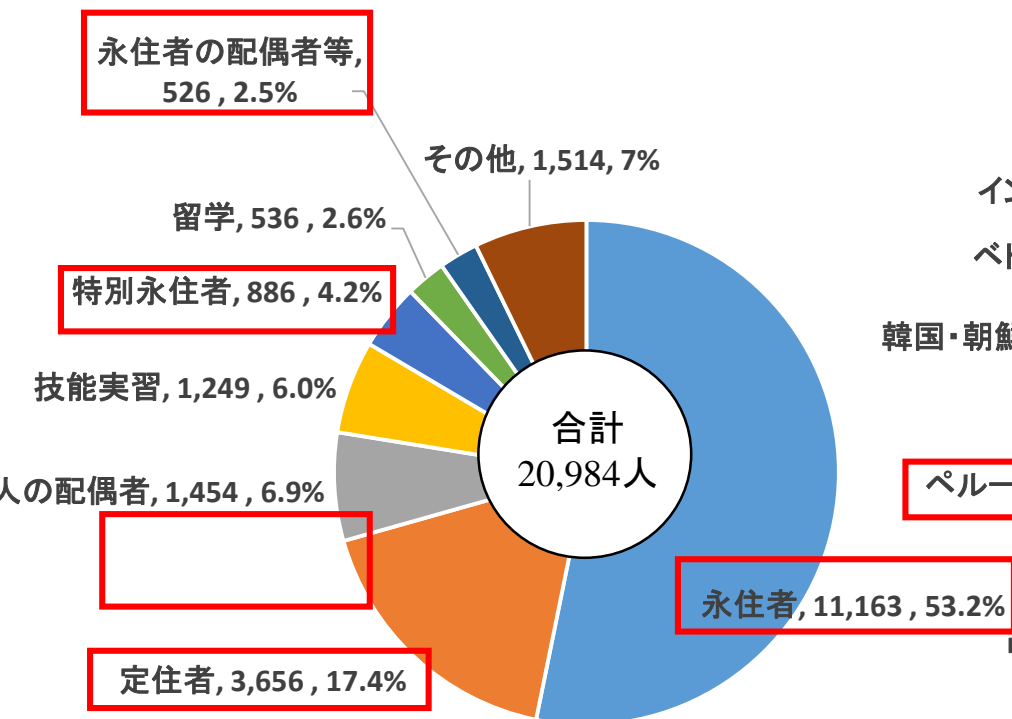
# 浜松市における外国人市民の状況

## 浜松市における在留外国人数の推移



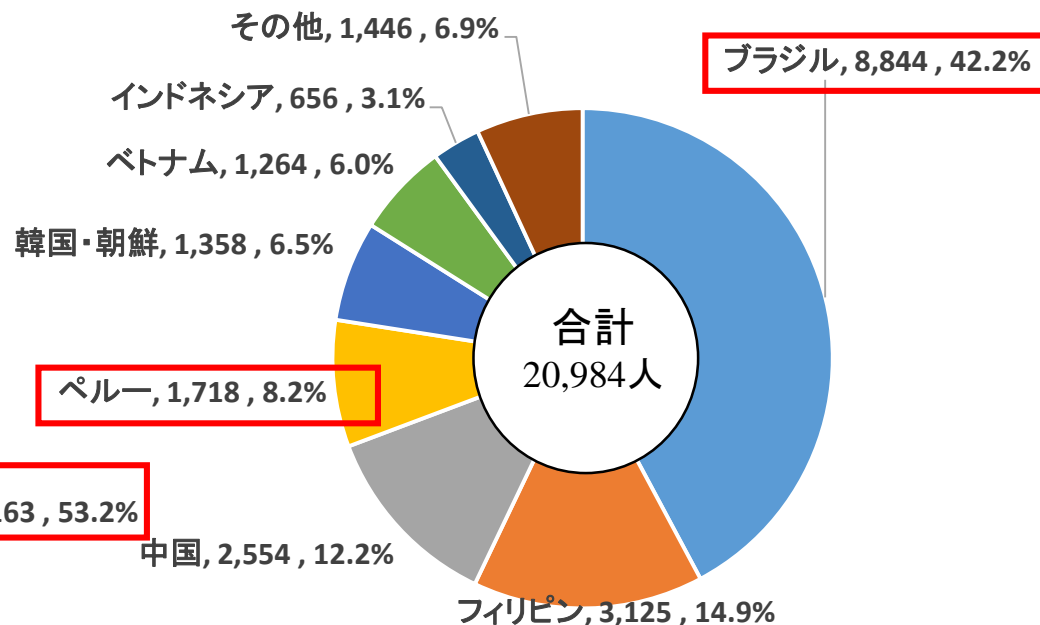
# 浜松市における外国人市民の状況

## ＜在留資格別内訳＞



(2016年4月1日現在)

## ＜国籍別内訳＞



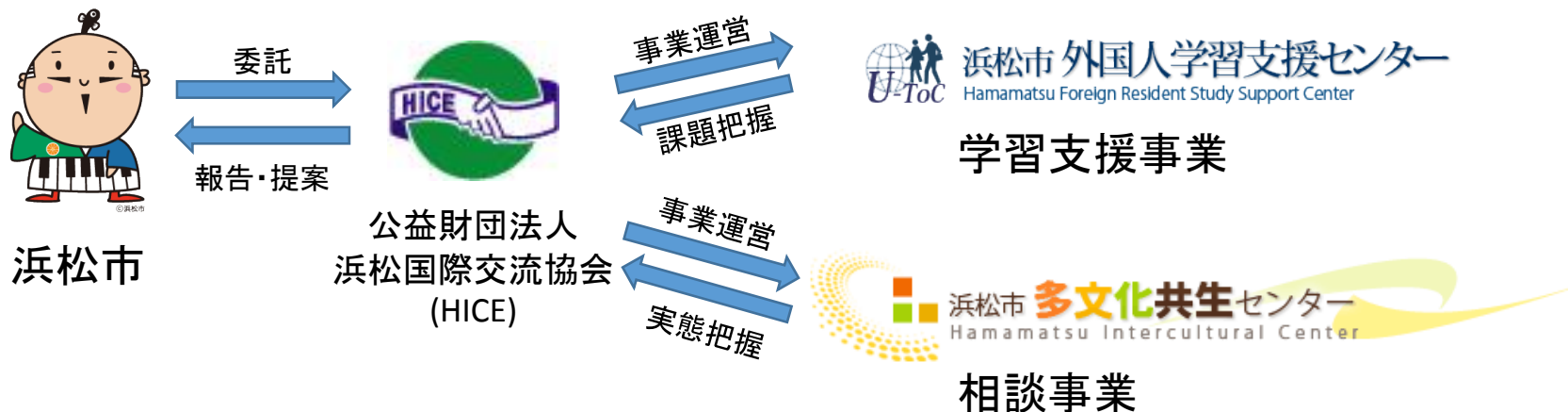
(2016年4月1日現在)

永住者等長期滞在が可能な  
在留資格は**84.2%**

ブラジル、ペルー等南米出身の  
外国人が多い(約**50%**)

# 公益財団法人浜松国際交流協会 (HICE)

- 市民レベルでの国際交流及び多文化共生の推進母体(1982年設立)
- 浜松市の外郭団体として、市国際課と連携を取りながら多文化共生事業を実施



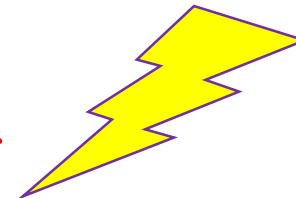
# 浜松市における地域日本語教育

- 1980年代 欧米を中心とした姉妹都市交流が盛んに
- 1982年 (任意団体)浜松国際交流協会(HICE)設立
- 1984年 外国人のための日本語教室(公民館)  
スタート
- 1990年 出入国管理及び難民認定法の改正
- 1991年 浜松市企画部国際交流室を設置  
財団法人浜松国際交流へ改組
- 1992年 国際交流センターの設置、外国人のための  
日本語教室スタート

# 浜松市における地域日本語教育

- 1995年～1998年 文化庁・地域日本語教育事業のモデル地区指定、日本語教育ニーズ調査
- 1996年 浜松版日本語入門テキスト「やらまいか日本語」の作成
- 1998年 日常生活のための日本語教室スタート
- 2001年 外国人集住都市会議(第1回浜松)開催
- 2005年 すぐに使える！日本語会話スタート\*  
\*学習ニーズに適応し、かつ日本語ボランティアの育成を兼ね備えた教室として開講。
- **2008年** 国際交流センターから多文化共生センターへ  
名称変更

**リーマンショック**



# リーマンショックをきっかけに意識の変化が...

リーマンショック前までは...

外国人:日本語学習にそれほど真剣でも積極的でもなかった

日本人:いずれ帰国するデカセギ労働者という認識で、積極的な関わりを  
持とうとしなかった

**日本語学習の必要性に  
迫られた**

求職活動

永住志向

住民として  
の関わり

日本に  
残る

ブラジルへ  
帰国

**リーマン  
ショック**



# ちなみに・・・リーマンショック直後の様子



2008年、リーマンショック直後。  
HICEのワンストップ相談コーナーに  
外国人が殺到



2009年厚生労働省委託事業、日系  
人就業準備研修。参加希望者が多く、  
第5期まで開催。

# 浜松市外国人学習支援センター(U-ToC) の開設

**2010年** 浜松市が多文化共生社会の実現を目指して開設。外国人の大人から子どもまでを対象に、総合的な学習支援の充実を図る。

1. 「日本語教室」
2. 「日本語ボランティア養成講座」  
「教職員対象の多文化共生講座」
3. 「多文化体験講座」
4. 「支援者のためのポルトガル語講座」

2010年の開設当初は、  
4本柱の事業展開。

5. 「地域日本語学習支援」
6. 「外国につながる子どもの学習支援」

時代の変化に伴う新たな  
ニーズに対応し、2014年  
より、6本柱に増加。

# 浜松市外国人学習支援センター (U-ToC)

開館スケジュール：  
月～金（土日、祝日休） 9:00～17:00



Welcome

Bem vindo

ようこそU-TOCへ！

Chào mừng

欢迎

selamat datang

시작

平成28年度学習者の国籍は全21か国





2階は  
ムンドデアレグリア  
学校

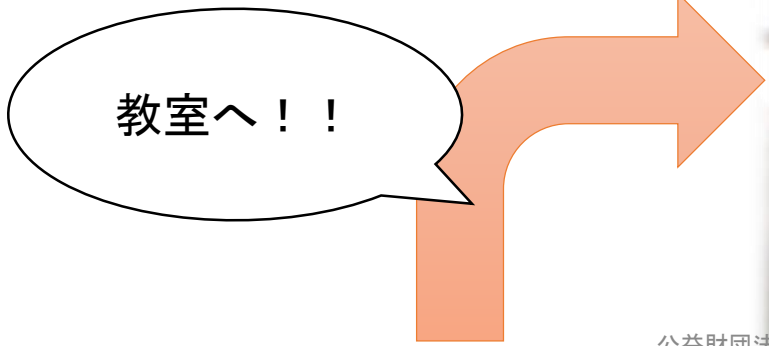
左手はU-ToC  
紹介パネル

右手は事務局  
窓口



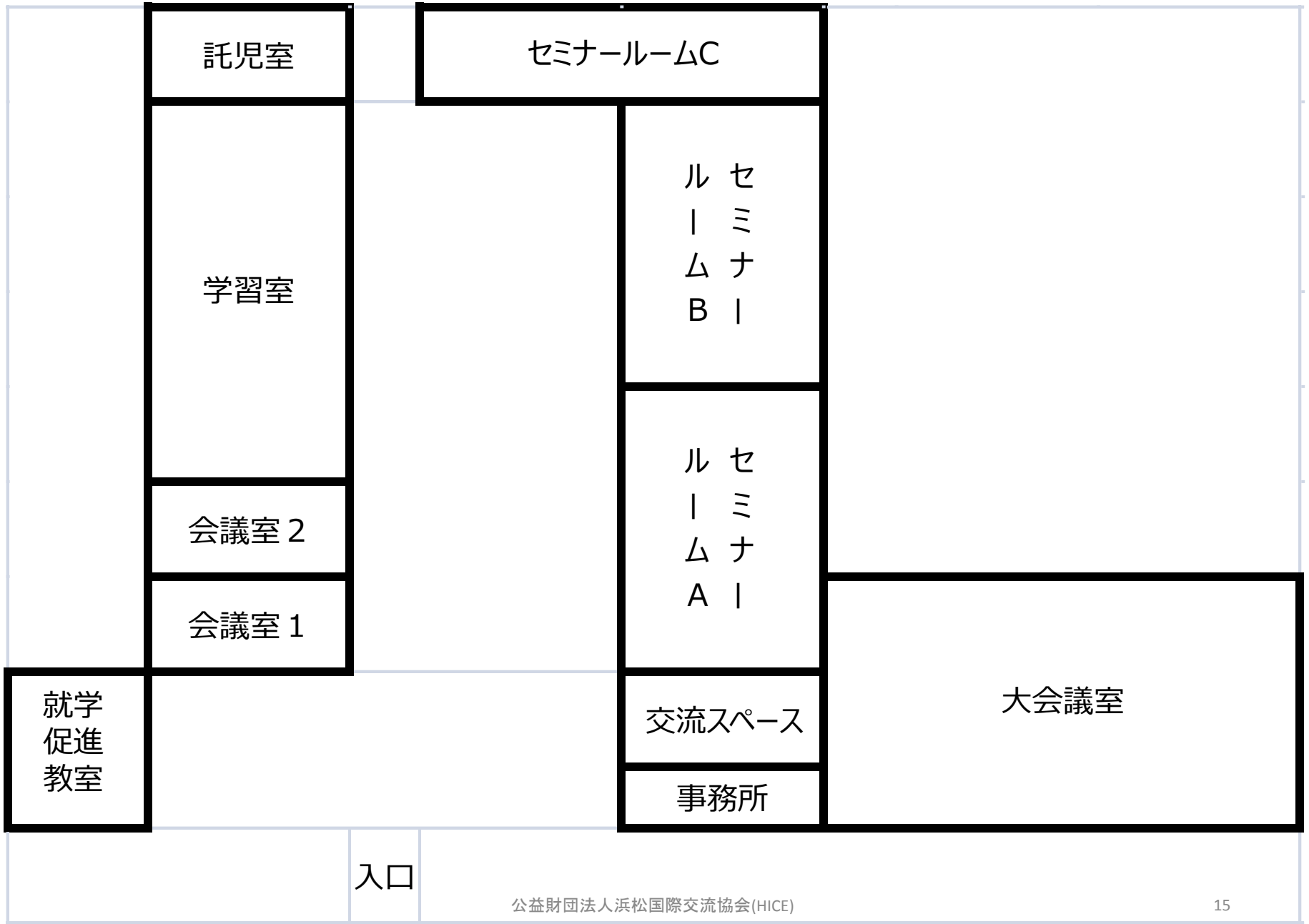


受付を  
終わたら・・・



教室へ！！





明るい笑い声が  
響く日本語教室



セミナールームは、日本語  
教室・養成講座・多文化体  
験・ポルトガル語講座等  
で使用。毎日、教室を開催  
しています。





毎年6月には、  
ブラジルの収穫祭  
「フェスタ・ジュニーナ」  
を行っています！

支援者のための  
ポルトガル語講座や教職員の  
ための多文化共生講座など、  
支援者向けの講座も行ってい  
ます。






中庭で行った  
「テラスdeランチ」


日本語学習  
を修了すると  
修了証がもら  
えます！

日本語教室の  
学習者名札





NPOころころ  
ねっと浜松より  
託児者が派遣  
されています



託児サービス有  
(無料・要予約)  
様々な国籍の子どもたち  
が、お母さんの勉強が終  
わるのを待っています！

ママ、  
まだ～？

Meeting Room  
Sala de Reuniões  
Sala de Reuniones  
会議室

空室

100人収容可。  
セミナーや講座で使用



日本語教育  
関係書籍

Lounge  
Área para Intercambio  
Área para el Intercambio

交流  
スペース

ランチを食べたり、交流したり。  
自習をする人もいます。○20



# U-ToC学習者の状況

平成27年度学習者より集計  
男性 42人、女性162人

	1	2	3	4	5
国籍 (全21カ国)	ブラジル 20%	中国 19%	ペルー 13%	フィリピン 11%	インド 10%
年代	30代 48%	20代 28%	40代 16%	10代 4%	50代 2.5% 60代～ 1.5%
在留資格	永住者 27%	日本人の配偶者 等 24%	家族滞在 18%	定住者 14%	日本国籍 3%
日本在住歴	10年以上 25.5%	1～5年未満 24.5%	0～3ヶ月未満 20%	5～10年未満 18%	3～12ヶ月未満 12%
日本語学習歴	0～3ヶ月未満 48.5%	1～3年未満 17.6%	3～6ヶ月未満 14.2%	6～12ヶ月未満 11.3%	3年以上 5.9%
なぜ日本語を勉強しますか	ずっと日本で暮らすから 26.5%	仕事がいいから(現在無職) 16.7%	子育てで使うから 15.2%	日本人と友達になりたいから 11.3%	日本の文化を知りたいから 10.8%
日本語教室にきたいすることは何ですか	日本語を勉強できること 45.6%	日本人や外国人と知り合えること 23%	安心できること 15.7%	日本や外国の文化を学べる 12.3%	お祭りなど地域のことを知ること 2.9%

# HICE日本語教室の変遷

	日本語教室	日本語教室の 担い手	担い手の養成・研修
U-ToC 開設 以前	はじめての日本語 全4回(週1回)×4期 すぐに使える日本語会話 全10回(週1回)×4~5期 日常生活のための日本語 全10~12回(週1回)×5期 年間216時間	日本語教師 日本語ボランティア	日本語ボランティア養成 講座 12~15回×1期
U-ToC 初年度 (2010)	はじめての日本語 全30回(週2回)×6期 日常生活のための日本語 全23回(週2回)×9期 わいわいクラス日本語会話 全23回(週2回)×3期 年間684時間	With U-Net * (*日本語ボランティアバ ンク登録者による有志の 会) 日本語教師 日本語ボランティア	日本語ボランティア養成 講座 19回×4期 約4倍

# HICE日本語教室の変遷

	日本語教室	日本語教室の 担い手	担い手の養成・研修
U-ToC (2011)	かな・漢字	With U-Net	日本語ボランティア養成講座
U-ToC (2012)			

**日本語学習ニーズの多様化**

↓

**対応する担い手の慢性的な不足**

↓

**ボランティアスキルアップ講座の実施**

↓

**しかし、担い手の増加にはつながらず**

座  
座  
アッ  
の基  
の多

# 日本語教師、ボランティア、学習者からの 不満

登壇と日本語  
ボランティアへの  
指導の両立  
は荷が重い。

〇〇先生の  
使う言葉は  
他の先生と  
違ってよくわ  
からない。

日本語教師で  
はない私たち  
に、教案や教  
材の作成まで  
求めるの!?

**担い手個人の問題ではなく、役割が混在し  
ていた体制を見直すべき！**



# 学習者に求められる教室づくりへ

## ①日本語教師と日本語ボランティアの役割を分ける

### 【日本語教師に求めたこと】

日本語教育の専門性を活かし教室を運営するほか、授業の改善、プログラムの提案を行う

### 【日本語ボランティアに求めたこと】

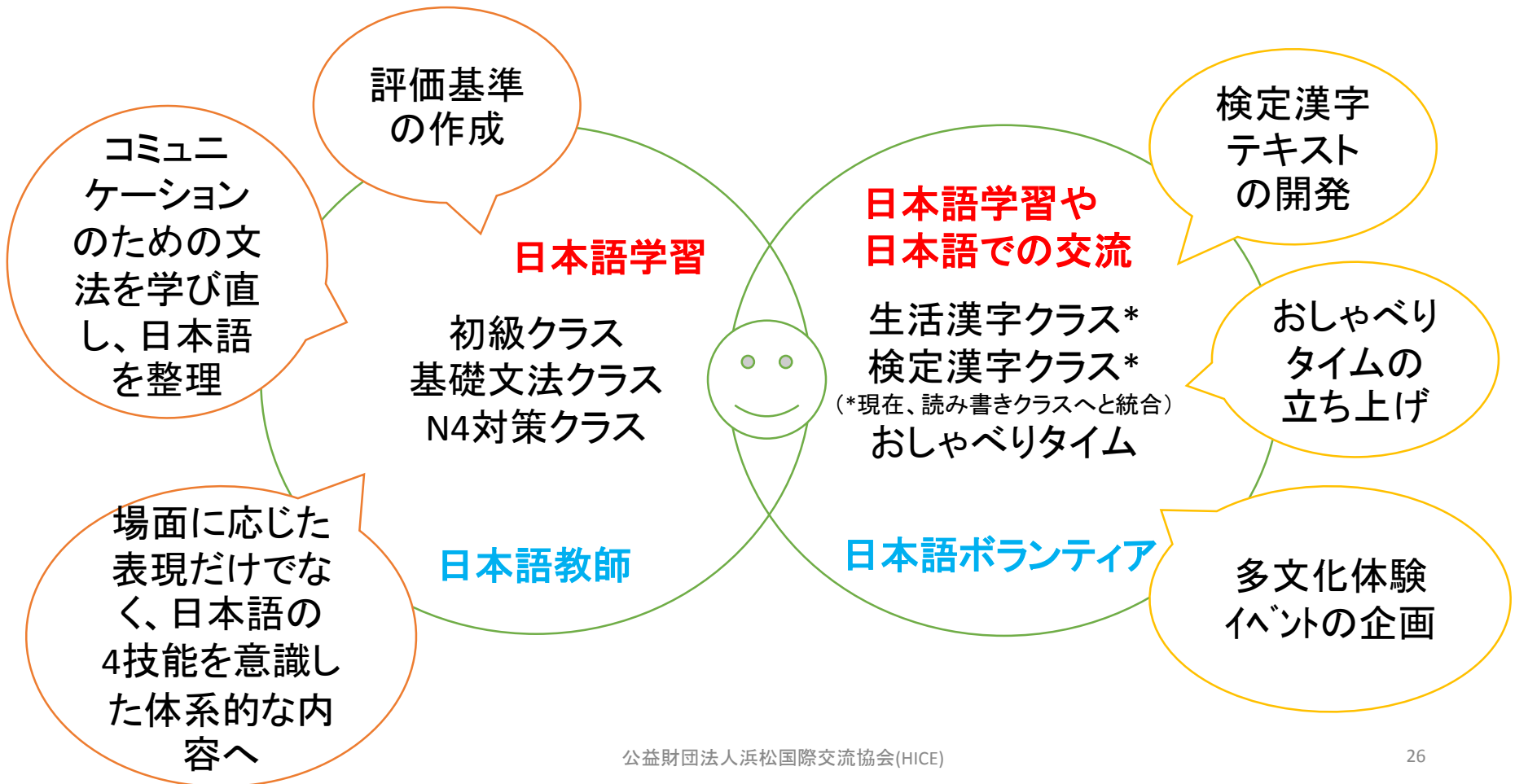
同じ地域に住む住民として、寄り添いながら学習支援を行うこと。自律学習が必要となる読み書きの支援を中心に、マンツーマン支援を行う。

## ②年度始めに事業説明会を行う

U-ToCの目的や、地域で日本語学習支援を行うことの意義を確認、共有する。支援者間の交流の場とし、意見交換ができる雰囲気を作る。

# 学習者に求められる教室づくりへ

2013年度から、日本語教師と日本語ボランティアの立場と役割を明確化したことで、各クラスの内容がますます充実。



# 毎年出てくる新たな日本語学習ニーズ

	日本語教室	日本語教室の 担い手	担い手の養成・研修
U-ToC (2016)	入門クラス 全10回×6期 初級クラス①、② 全24回×3期×2 初中級クラス 全15回×2期 基礎文法クラス 全10回×3期 読み書きクラス(かな、生活 漢字、検定漢字、多読、作 文) 全40回×2期 <b>若者のための日本語教室            (入門・初級)</b> 全60回×2期 <b>若者のための日本語教室            (JLPT・漢字・作文)</b> 全40回	With U-Net  日本語教師  日本語ボランティア  日本語教師	日本語ボランティア 養成講座 20回×2期 日本語ボランティア スキルアップ講座 4回×1期

# 日本語教師の人材不足に直面

- ・2014年度文化庁委託事業で行った地域日本語教育推進連携事業で**地域の日本語学習支援団体でも人材不足**なことが明らかに。
- ・**留学生の増加**により、日本語教師の需要が高まる。
- ・U-ToCでも、今年度(2016年度)から、新たな教室(外国につながる若者のための日本語教室)が増加。
- ・**企業や高校から日本語教室コーディネートの相談**、個人からプライベートレッスンの依頼等、新しいニーズの増加。



地域を理解し、学習者のニーズに沿った指導ができるようになるまでには育成が必要。



## 浜松版地域日本語教師養成講座の開発、実施

(平成25,26年度文化庁委託事業)

# 浜松版地域日本語教師養成講座【開発】

## 【開発会議】

現場の日本語教師、民間の日本語教師養成学校、有識者に協力を仰ぎ、地域（浜松）の特徴を理解し臨機応変に対応できる日本語教師を養成する講座を検討。

松葉・河口・松本(2013)「在住外国人に対する社会型日本語教育における一考察～浜松市外国人学習支援センターの取組～」『浜松学院大学研究論集第9号』

## 【地域で求められる日本語教育について検討】

労働や結婚など日本語学習が第一義目的ではない定住外国人に必要な日本語学習は？

在住歴が長く、生活の中で日本語が話せるようになった外国人の日本語の特長とそれを整理する学び直しとは？

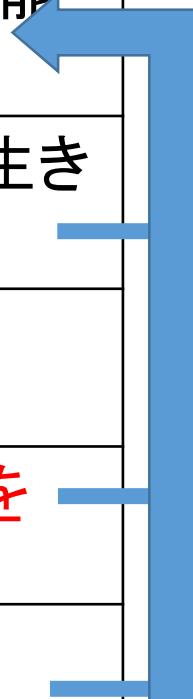
日本育ちの若者の日本語力を伸ばすには何が必要か？

家族から働くことを期待されて来日した外国人の若者に必要な日本語とは？

# 浜松版地域日本語教師に求められる力の検討

## 【求める資質・知識・能力】

<p>日本語教育に関する知識</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各講義を通じてCの力がつく内容としている</li><li>+</li><li>・EFの要素も重要である</li><li>+</li><li>・CEFの力を日本語を教えるという専門性をもって示せるようBの力に落とし込む</li></ul>	A: 日本語教育に関する知識・能力
	B: 日本語教育に関する実践能力
	C: その地域社会を理解し、生きる力
	D: 企画立案能力
	E: 人とつながりネットワークを構築する力
	F: 対人関係を築く力



平成22年度文化庁日本語教育研究委託「生活日本語の指導力の評価に関する調査研究報告書」(社団法人日本語教育学会)

# 浜松版地域日本語教師養成講座【概要】

【目的】地域に在住する定住外国人の多様な学習ニーズに臨機応変に対応でき、地域の多文化共生に資する日本語教育を行う仲間を増やす。

【対象】日本語教師有資格者（ただし、多文化共生に資する日本語教育講座（連続公開講座）は興味のある方なら誰でも受講可）

【内容】知識＋実践の二本立て（全41.5時間）

（知識）多文化共生に資する日本語教育について学ぶ講座（公開講座）

（実践）地域で求められる多様な日本語学習ニーズに臨機応変に対応する力を養う講座

**9月からスタート！**

# 浜松版地域日本語教師養成講座【概要】

## 【前半】知識(連続公開講座)

講座名	内容	養成する力
地域理解 (2回連続)	市の取組、外国人の現状、在留資格、市内各教室、ボランティアの取組	C
異文化コミュニケーション	(寄り添う力) 世界の価値観を理解し、違いを認める	EF
異文化コミュニケーション	(つながる力) 相手を尊重した上で、自分の気持ちもしっかりと伝える	EF
世界の移民統合政策	世界の移民統合政策を学び、日本の現状を考える	C
国(浜松市)の多文化共生施策	多文化共生についての日本の動きを学ぶ	C
言語政策と地域日本語教育	多文化・多言語主義を学び地域日本語教育を考える	C
やさしい日本語	やさしい日本語の理論を学び、共生のための日本語について考える	C
多文化共生のジレンマ (2回連続)	ひょうたん島問題(ワークショップ)から多文化共生のジレンマを実感し、浜松市の現状と比較する	CEF



# 浜松版地域日本語教師養成講座【概要】

## 【後半】実践

講座名	内容	養成する力
発話を引き出す質問力	質問の仕方によって発話の引き出し方が違うことを学ぶ	BEF
対話する力・響き合う力	対話によって実践を進めることの大切さを学ぶ	BEF
グループワーク (多様な現場から学ぶ)	地域で日本語を学ぶ学習者にはどんな学習ニーズがあるのか、地域日本語教室ではどのような日本語学習支援を行っているのか学ぶ	BC
プロジェクトワーク	イベント「写真で語る私の歴史」での発表をゴールに、1人の学習者とじっくり向き合って、学習者の自分史作成を協働で行う	BCD
自己教育力	内省する力の必要性を学び、時代の変化や地域のニーズに伴い進化し続ける教師を目指す	B
HAJAC	浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムの概要と活用について学ぶ	BC
地域日本語教育の重要性	地域日本語教師の重要な役割や求められる社会的意義について学ぶ	C

講座を通じて、日々直面する新たな課題にチャレンジすることを一緒に楽しめる方とお仲間になれることを願っています！

ご清聴ありがとうございました。

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)

